

宮城県感染症発生動向調査情報(第15週)

宮城県【平成26年04月17日】発行
宮城県保健環境センター
TEL (022)257-7228

- 2014.4.7 ~ 4.13 ・ 第15週 -

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾 病	保 健 所							宮 城 県 (含む仙台市)						
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼	患者数	患者数	累計	第12週	第13週	第14週	第15週
水痘	12 2.40	4 0.40		2 1.00	2 0.67	1 0.20		6 0.23	27 0.47	766	レ→	○→	○→	レ
流行性耳下腺炎						1 0.20	1 0.50	8 0.31	10 0.17	173	→	→	→	
百日咳											→	→	→	
感染性胃腸炎	66 13.20	77 7.70	12 2.40	12 6.00	7 2.33	2 0.40	8 4.00	139 5.35	323 5.57	7,522	◎→	◎→	◎→	◎
手足口病											→	→	→	
伝染性紅斑	4 0.80	8 0.80	5 1.00					23 0.88	40 0.69	535	○→	○→	○→	○
突発性発しん	2 0.40	7 0.70	5 1.00	1 0.50	3 1.00	6 1.20	2 1.00	14 0.54	40 0.69	467	○→	○→	○→	○
ヘルパンギーナ		1 0.10	1 0.20						2 0.03	3	→	→	→	
インフルエンザ	41 5.13	55 3.67	55 6.88	26 8.67	34 6.80	66 8.25	23 5.75	161 3.83	461 4.96	26,740	◎→	◎→	◎→	◎
咽頭結膜熱	1 0.20			2 1.00		3 0.60		5 0.19	11 0.19	120	→	→	→	
流行性角結膜炎		2 0.67						2 0.33	4 0.33	28	→	→	→	
急性出血性結膜炎											→	→	→	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6 1.20	17 1.70	6 1.20	9 4.50	2 0.67	11 2.20		22 0.85	73 1.26	2,060	◎→	◎→	◎→	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)											→	→	→	
無菌性髄膜炎											→	→	→	
マイコプラズマ肺炎		1 1.00	1 1.00	1 1.00	1 1.00		2 2.00	3 0.60	9 0.75	123	→	→	→	
クラミア肺炎(オウム病は除く)											→	→	→	
RSウイルス感染症	4 0.80		3 0.60	1 0.50				9 0.35	17 0.29	246	→	→	→	
拡張疾病	マイコプラズマ肺炎(小児科)	4	1					1			◎：流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○：発生または流行について、今後の情報に留意 レ：発生が少なくなっている傾向			
	川崎病		2								【週報の詳細】宮城県保健環境センターのホームページをご覧ください。 http://www.ihe.pref.miyagi.jp/~kansens-center/			
	不明発疹症	1						3						
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)※							4		29				

※ 法改正により、平成25年10月14日より、ロタウイルスが原因の感染性胃腸炎について、基幹定点より報告を求めることになりました。

インフルエンザ関連情報 (患者報告年齢別割合)

報告週	0~4歳 (%)	5~9歳 (%)	10~14歳 (%)	15~19歳 (%)	20~29歳 (%)	30~39歳 (%)	40~49歳 (%)	50~59歳 (%)	60~69歳 (%)	70~79歳 (%)	80歳~ (%)	総数 (人)
2014年 第9週	19.8	38.7	22.4	2.0	2.5	5.1	3.3	3.1	1.8	0.8	0.4	3,271
第10週	18.3	40.8	21.7	1.9	2.8	5.7	3.9	2.6	1.3	0.5	0.5	3,626
第11週	18.4	43.4	20.1	2.5	2.0	4.2	4.0	2.2	2.1	0.7	0.4	3,704
第12週	21.6	42.0	19.4	1.9	1.8	4.4	3.7	2.7	0.9	0.7	0.8	2,736
第13週	21.5	36.0	17.1	2.5	2.6	7.9	5.3	2.8	2.3	1.0	0.9	1,734
第14週	26.1	32.5	9.4	3.4	2.8	8.9	4.9	4.2	5.5	1.1	1.1	788
第15週	31.2	23.4	10.0	3.5	3.7	8.7	6.3	7.4	4.1	1.5	0.2	461

定点把握の対象となる5類感染症(全国 第13週) (国立感染症研究所感染症疫学センターホームページより抜粋)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は第10週以降減少が続いているが、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は福井県(27.19)、岩手県(22.13)、山形県(20.10)である。年齢別では0歳(35例)、1~9歳(166例)、10代(27例)、20代(9例)、30代(23例)、40代(11例)、50代(21例)、60代(35例)、70代(66例)、80歳以上(96例)であった。RSウイルス感染症: 報告数は641例と増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約81%を占めている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 定点当たり報告数は第10週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は新潟県(3.70)、山形県(3.67)、福井県(3.14)である。感染性胃腸炎: 定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別の上位3位は大分県(14.69)、熊本県(13.40)、宮崎県(11.94)である。水痘: 定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は沖縄県(2.97)、福井県(2.23)、鹿児島県(2.20)である。マイコプラズマ肺炎: 定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は青森県(1.83)、宮城県(1.08)、栃木県(1.00)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る): 定点当たり報告数は減少した。年齢別では0歳(15例)、1~4歳(94例)、5~9歳(16例)、10代(3例)、20代(1例)、30代(1例)、70歳以上(2例)であった。

* 全国の指定された医療機関(小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)の集計結果です。()内: 定点当たり報告数

今週の全数報告疾病

- 1類感染症: 報告なし ※男児、女児は6歳未満
- 2類感染症: 結核
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症(O157)
 - 大崎管内 女性1名(第14週)、女性1名
 - 仙台管内 男性1名、女性1名
- 4類感染症: 報告なし
- 5類感染症: アメーバ赤痢
 - 塩釜管内 男性1名
 - 仙台管内 男性1名
 - 侵襲性肺炎球菌感染症
 - 大崎管内 女性1名

今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 6例

今週の感染症のコメント

宮城県感染症対策委員会情報解析部会

[インフルエンザ]

県内の患者数は、第11週をピークとして4週連続で減少し、今週県内すべての管内で警報継続基準値10を下回りました。引き続き日常的な感染予防に努めてください。

【病原体検出情報】

～仙台医療センターウイルスセンター～

	第13週採取分 (3.24~3.30)	第14週採取分 (3.31~4.6)	第15週採取分 (4.7~4.13)
インフルエンザウイルスAH1pdm	1件	1件	0件
インフルエンザウイルスAH3		0件	0件
インフルエンザウイルスB	2件	1件	0件
インフルエンザウイルス(解析中)	0件	1件	1件
RSウイルス	0件	2件	1件
アデノウイルス	1件	0件	0件
サイトメガロウイルス	1件	1件	0件

[つつが虫病]

つつが虫病は、ダニの一種であるツツガムシに刺されることによるリケッチア症で、主

症状は高熱、発疹、リンパ節の腫脹や時に肝臓機能異常などが見られる。春から初夏、秋から初冬にかけて山林、河原などで感染することが多いので、これらの場所では素肌を出さないようにするなどの予防策が重要である。

【HIV感染者、AIDS患者累積報告数】 平成25年12月29日現在

	HIV感染者	AIDS患者
宮城県	109(2)	76(2)
全国	15,783(295)	7,188(108)

()内は平成25年9月30日~平成25年12月29日分の報告数である。
国立感染症研究所・感染症疫学センター IASR2014年3月報より